

令和四年度 全日本中学生水の作文コンクール愛媛大会

知事賞

激励賞

中央審査

佳作

## 「水、貴重な存在とその価値」

新居浜市立中萩中学校

三年

松原

七海

まつばら ななみ

現代の日本で暮らす私達にとって、水環境におけるストレスを抱える機会は、非常に限られているのではないだろうか。

私の家では、蛇口をひねると水が出て、寒い冬には温度調整までできる。お風呂では好きなだけ水を使いながら体を洗うこともでき、外出先で喉が渴けば、コンビニなどですぐに水を手に入れる環境がある。そして、利用する水のどれもが衛生的だ。

この作文をきっかけに水について調べていくうちに、世界にはそのような私達とは真逆の生活を強いられ、水に関する問題に直面している人達が大勢いることや、多くの日本人や日本企業が、世界各地の水問題を解決するために活動していることを知った。

中でも私の心に強く刻み込まれたのは、アフガニスタンで安全な水を確保するため、その生涯を捧げた中村医師の取り組みだ。

医療支援のために入国したアフガニスタンで、大干ばつと水不足に遭遇し、食糧難による栄養失調や不衛生な水による感染症等で多くの患者が命を落とす中、中村さんがたどり着いた答えは水だった。土木技術の知識も経験も無い中、医療活動と併せて水資源確保の事業を開始し、かんがい水路の建設では、現地の人々が自分達で施設管理できるように、日本の伝統的な治水工法を採用するなど地域に根ざした事業を展開した。

戦争や飢餓など厳しい環境の下、長年にわたりアフガニスタンの水問題に取り組み、その功績は、一万六千五百ヘクタールもの砂漠を緑豊かな田畑に変え、百万人を超える人々の命と生活を救った。広大な砂漠が緑溢れる大地に変わった現地の写真を見て、私の心は感動と驚

きに包まれると同時に、水の恩恵とその貴重な存在に気付かされた。

また、アフガニスタン以外にも、水資源の確保が困難な国が、多数あることも知った。それらの国では、まず水の確保自体が命がけの行為だ。何キロも離れた遠い水源、そして、その水源にあるのは不衛生な水。エチオピアで暮らす少女が、八時間もの時間をかけて採集する水の動画に私は衝撃を受けた。水は茶色く濁り、まるで泥水に見えた。その水を口にすることはもちろん、手を洗うことさえためらうだろう。しかし、生きるためにはそんな状態の水を飲まざるを得ない過酷な環境で暮らす人々が、世界にはいるのだ。

水は、生命の源であり生きるために欠かせないものだ。それは、世界中の人々にとって共通の事実だが、水に対する価値観は、大きく異なるということを私は深く学んだ。日本では、安全な水がどこでも手に入るのが当たり前であり、断水や濁水で水の確保が困難になるのは災害時など有事に限られ、そのことを不便にさえ感じる感覚が、私達の水に対する価値観なのだ。「濁水のように使う」という表現があるが、まさに水環境に恵まれた日本人の感覚から生まれた言葉だと私は思う。一方で、私達は水を無駄遣いしているだけではない。日本の水道システムは世界の最先端であり、河川の汚染を防ぐ排水処理や雨水、廃水のリサイクルなど、貴重な水資源を有効活用する技術開発も盛んに進められている。これらの取り組みは、水を大切に使う日本人の意識に基づくものだと思うし、そうした日本の技術や価値観は、今後の世界の水問題の解決に必ず貢献できるものだと考える。

今、世界の水問題の要因は、使用水量の増加や非効率な水の利用、水源の汚染などが挙げられる。そのどれもが、私達の日々の生活で意識して取り組めるものばかりだ。だからこそ、私も水を守るための行動を始めよう。できることは小さなことかもしれないけど、恵まれた水環境への感謝を忘れずに続けていきたい。一人一人の意識の変化と行動の積み重ねが、みんなが平等に水の恩恵を受ける未来に繋がることを信じて。